

## 8.産業労働

8.5 若者や障がい者を含むすべての人の完全かつ生産的な雇用及び働き甲斐のある人間らしい仕事、並びに同一労働同一賃金を達成する。

- ・起きたことに対応するよりも起きないようにする方がコスト的に得策
- ・そのために、人材の養成がかかせない。ソフトの開発、教育の拡大など雇用につながる
- ・ものづくりだけが産業でなく新たな分野での雇用創出が可能
- ・これまでの社会スタイルを見直せば、教育、福祉、命の分野が基本となる。まさに関心が薄かった領域が今後のターゲット
- ・政策の転換が必要、後追い、慣例、矮小化したリスクへの恐れは不要。自然災害に対して、モノの強靱化だけで十分か。

## 9. インフラ構築

9.1 すべての人々に安価で公平なアクセスに重点を置いた経済発展と人間の福祉を促進するために、地域・越境インフラを含む質の高い、信頼でき、持続可能かつレジリエントなインフラを開発する。

- ・平常時のインフラ整備が、これからのさまざまな変動に耐えられるか
- ・ものは劣化し、機能の低下は避けられない
- ・災害について、素因誘因を明らかにしたうえで、データサイエンスを駆使して限界を知ること、ハード対策の限界を理解すること
- ・ものには寿命があり、劣化・風化、環境に不適なことも出現する
- ・自然災害とは環境への不適さであり、防災はそれへの適応を考える作為なり
- ・「逃げるが勝ち」を少子高齢化、財政難の中で、先を見ての議論が必要、目先のことで無駄をするな
- ・これまでのことを延伸することでよいのか、「楽あれば苦あり」とならない識見を政策に！
- ・トレードオフから逃げないリスクマネジメントを実施する、片目では不十分

9.c 情報通信技術（ICT）へのアクセスを大幅に向上させ、普遍的かつ安価なインターネットアクセスを提供する

## 10.各国内及び各国間の不平等

### 11.都市及び人間

11.1 適切、安全な基本的サービスへのアクセスを確保し、スクラムを確保する

- ・災害時には急に基本的なサービスの提供は無理で、避難所における、平常時から基本的なものが保障されていることが重要。住宅内の一部耐震化、インフラのフェールセーフ化などの促進。また、自分のところで確保できないようであれば近隣で協力支援できるような仕組みが必要。
- ・避難所に関しては、立地について地震時、豪雨時の両面で安全なのかを明確にしておくこと、避難までの経路が危険であれば、避難の方法を徹底する必要がある。基本的には、早期に情報を収集して、安全を確保する方法、場所を決めておくこと。

・土砂災害などでは、兆候をキャッチすることが大事ではあるが、可能性のあるところでは事前に避難するとかやや安全なところへ移動するという判断が重要。気持ちだけの判断は避ける。

11.2 脆弱な立場の人に、交通の安全性改善により、安全かつ安価で容易に利用できる、持続可能な輸送システムへアクセスを確保する

- ・支援者に対しては、地域で情報を共有して、早めの避難を促し支援することが基本で、その仕組みを構築しておく。
- ・避難場所が歩行に耐えない遠距離であれば、中間地点に一時避難箇所を事前に備えておくこと。そのような手順を徹底しておく。
- ・災害時はいっせいになることもあるので、事前にグループ化しておいて、早期の対応をすること。基本は情報の共有、早めの判断を信念を持って実行すること

11.3 包摂的かつ持続可能な都市化を促進し、持続可能な人間居住計画・管理の能力を強化する

- ・防災を取り入れたまちづくりが必要で、既存の都市構成についても可能な範囲での改善が望ましい。
- ・どのようなリスクが地形地質、過去の履歴から評価することが重要で、他地域の履歴も参考にすべきである。単なる利便性だけで展開すると過去の再現に逢う
- ・特に、最近多くなっている内水氾濫にも関心を持つ

11.4 文化遺産及び自然遺産の保護・保全への努力を強化する

- ・遺産の中には、過去の土地利用や自然のシステムを活用している例を参考にすべき先人は、自然のありようなどどのように向き合ってきたのかを知ることに持続可能にするヒントが隠れている
- ・何らかの災害文化が隠れていることがあるので、風土を重ねながら読み解くことが可能
- ・環境に変化を与えない、あったとしても適合して、変化についていくことが保全につながる。人為的なことで環境を変える行為が災害の元を作ることになる

11.5 災害における死者や被災者数を大幅に削減し、経済損失を大幅に減らす。

- ・災害における復旧には莫大なコストが要することになるし、緊急性を要するものが多い。
- ・できるだけ、事前にリスクを把握し、避難、補強して、被害の最小化を図る
- ・災害が発生すると、結果には必ずそうなる理由があるので、逆読みをしての対応をする

11.6 環境上の悪影響を軽減する

- ・環境を変える作爲は、それに対応すべきことが起きてくる。そうすると次々に都合の悪いことが誘起される
- ・悪影響とは、土砂の生産、降雨水の循環が短絡することでもあり、環境に対して悪循環を呼ぶ

11.7 人々に安全で包摂的かつ利用が容易な緑地や公共スペースへの普遍的なアクセスを提

供する

- ・地震や豪雨災害でも安全な箇所を事前に把握して、誘導することが大事になる。ただし、安全なところまでの移動、建物安全性など総合的な視点での安全性、安定性の両面からの評価が必要
- ・空間の広さに加えて、アメニティが確保される必要があり、常時基本的な備品があるようにする
- ・運営は避難者の状況に合わせて、公平を旨とし、民主的でなければならない

11.b 気候変動の緩和と適応、災害に対する強靭さを目指す総合的政策および計画を導入・実施した都市及び人間居住地の件数を大幅に増加させ、あらゆるレベルでの総合的な災害リスク管理と策定と実施を行う

11c 現地の資材を用いた、持続可能かつ強靭な建造物の整備を支援する